

申し入れ書

2020年2月10日

鎌ヶ谷市長 清水聖士様

「民主と自治の会」
藤代政夫 渡邊俊彦
戸部光枝 佐藤剛
連絡先：047-445-9144

“学校給食費の無償化、そして有機食材の使用“の方向性を検討してください。

日頃より子どもの育つ権利・教育権の充実のためご尽力くださり、そのご努力に敬意を表するしだいです。

文部科学省は2018年7月27日に“2017年度全国の学校給食の無償化の実態調査”の結果報告をしました。その報告によれば千葉県では1町が小・中学校の無償化、1町が中学校のみ無償化、一部補助が13市町村でした。

2019年度では千葉県の54市町村中、小中学校の給食費無償化は7町に、一部補助が19市町村にと、少しずつですが給食費の無償化に向けそれぞれの自治体が努力しています。

又、いすみ市では学校給食でのお米（いすみっこ）は有機米100%を実現しています。54市町村中26市町村が地元のお米を使い、そのうち4自治体が有機米、7自治体が農薬・化学肥料50%削減の特別栽培米です。子どもへの食育・安全安心な食の提供に向け自治体が努力していると思われます。

韓国ソウル市では2021年には小・中・高校の給食費の完全無償化と有機食材での給食が実現されます。

ひるがえって鎌ヶ谷市の小中学校給食は9000食のセンター方式ですが、無償化の動きはありません。給食費の滞納者に対し裁判所を使って督促し納入してもらっていることを自治体の努力の成果としている感がみられ、世の中の流れに乗り切れていないのではと危惧されます。

食材についても“地産地消”とは言っているがその努力が十分なのか？「遺伝子組み換え・ゲノム編集のものは有機農産物とはいえない」とするのが政府の立場ですから、遺伝子改変されたものでない国産の安全な食材を子ども達に提供するのが自治体の役目だと思われます。米作のための田んぼが耕作放棄され米が作られていないので今すぐ鎌ヶ谷産の米とはいきませんが周辺自治体の有機米を使わせてもらうとか、里山環境の復活を含めて鎌ヶ谷米の復興を検討してもよいのでは（農業政策・街おこしとして）と思われます。

世田谷区では昨年10月から学校給食の一部無償化を始めました。

鎌ヶ谷市においても

- ① 学校給食費の無償化を
- ② 食材の有機生産物使用を検討し実施していただきたく存じます。

文書による回答を2月25日までにお問い合わせ申し上げます。